

お茶の間学Ⅱ

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

「木造建築の設計士になりた
い」。私がNPOを設立する数
年前、弟は東京工業大学建築学
科の門をたたきました。そこに
行けば木造の詳しい勉強ができ
ると思っていたからですが、大
学では木造建築のことを教えな
いと言つのです。

木の文化といわれる日本にお
いて、そんなはずはないと耳を
疑いました。法隆寺に代表され
るように、日本には千年以上も
前に建てられた木造の寺社が存
在し、それを建てる職人さんが
育成されてきた文化がありま
す。木造建築に使う木材を何十
年、何百年と時間をかけて育て



1000年以上の時を経た木造建築の代表である
法隆寺五重塔

もり 木林をつくらう 脊振の地から

6

佐藤和歌子

木造建築学べぬ大学

ている人も多く存在します。

でも調べてみると弟の言う通
り。日本の大学教育の中には、
木造建築について時間をかけて
真剣に取り組む環境は、ほとん
どないに等しい状態でした。

全国には、きっと弟と同じよ
うに木造のことを勉強したい学
生もいるはずだ。

ならば、そんな学生の夢を实
現する機会をつくり、彼らに木
造だけでなく、木材

のこと、林業のこと
をしっかりと伝えてい
けば、国産木材PR
につながるかもしれ
ない。それも、建築

業界からではなく、
山側からの提案に耳
を傾けてもらうプロ
ジェクトにしたいと

家族で考えた結果、
学生を対象にした設
計コンペ活動に取り

組むことにしました。

でも、山のことも木材のこと
も無知識に等しい私。まして建
築のこととなると、コンペをす
ると決めても何から手をつけて
よいか、皆目見当も付きません。

そんな折、「所有者も、育つ
環境も異なる森林や木材も、す
べて同じように扱う国や県の施
策には限界があるのかもしれない。
木材利用の推進や森林保全

(NPO法人「森林をつくらう」
理事長、佐賀県神埼市)

を考える活動は、いろんな形が
あっていい」と応援してくれる
役人が現れました。当時、林野
庁から佐賀県森林整備課に向
っていた井出俊俊課長でした。

「佐藤さんの取り組みは、何
よりも大切な所有者の山を育て
る意欲と使う人の意欲を生み出
す気がする。応援するから一緒
に取り組んでみましょうか」。

その言葉が、ついつい気弱にな
ってしまふ私の背中を押しして